

令和3年度 第1回 八千代市立郷土博物館協議会会議録

会議名 令和3年度第1回八千代市立郷土博物館協議会

日時 令和4年1月27日（木）

開会 午後1時30分

閉会 午後2時20分

会場 八千代市立郷土博物館学習室

報告事項

- (1) 令和2年度 八千代市立郷土博物館事業報告 **資料1**
- (2) 令和3年度 八千代市立郷土博物館事業報告（中間） **資料2**
- (3) 令和4年度 八千代市立郷土博物館事業計画（案）（骨子） **資料3**

審議事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大等異常時における博物館事業について **資料4**

視察

- (1) 令和3年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～学びを支えたもの～」

出席者

委員 久留島 浩 前人間文化研究機構国立歴史民俗博物館館長

横地 清美 八千代市子ども会育成連絡協議会会長

鈴木 利明 八千代市村上北小学校校長

注) 斎木健一委員・大野康男委員は都合により欠席

事務局 教育長 小林 伸夫
教育次長 加藤 博士
文化・スポーツ課長 米ノ井 正樹
館長 清藤 一順
副主幹 小林 伸一
主査補 押元 常德
主任主事 古川 琢哉
主任主事 田口 定夫
主任主事 常松 成人
資料調査研究員 野中 政博
資料調査研究員 川名 瑞希

公開・非公開 公開

傍聴人定数 3名

傍聴人 0名

会議録

開会

○清藤館長

郷土博物館の清藤です。時間となりましたので、ただ今から令和3年度第1回八千代市立郷土博物館協議会を開催させていただきます。

「八千代市立郷土博物館協議会運営規則」（平成12年5月31日教委規則第8号）第3条第2項により、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」とあり、本日は5名中3名の委員の御出席をいただいておりますので、会議として成立しております。

なお、当協議会は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第3条に基づき公開対象となっておりますが、本日傍聴される方はいらっしゃいません。

当協議会は、昨年度に委員へのご就任をご承諾いただきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本日まで会議を開くことができず、本日の会議が今期初めての開催となりました。

このため、会長が未選出であることから、会長名での会議出席依頼ができず、また、本日の議長も不在であります。したがって、議長が選出されるまで、私が進行を努めさせていただきます。

初めに八千代市教育委員会の小林伸夫教育長から、ご挨拶を申し上げます。

1 教育長あいさつ

○小林教育長 令和3年度第1回八千代市立郷土博物館協議会の開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

委員の皆さまにおかれましては、公私ご多忙のなか、ご出席いただき、感謝申し上げます。

また、昨年度の7月に今期の委員改選が行われましたが、委員への就任をご快諾いただきましたことに感謝申し上げますとともに、今日に至るまで、新型コロナウイルス感染症の拡大により本協議会を開催できませんでした。改めてお詫び申し上げます。

さて、八千代市立郷土博物館は、本市の自然・歴史・文化・産業などに関わる資料の、収集・保管・管理・調査を行い、展示・公開などの事業を通じて、これらを未来に継承するという重要な役割を担い、日々の業務に当たっているところでございます。

先に触れました新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、元年度の2月29日から年度を超えて2年度の5月31日まで、臨時休館となりました。

開館後も、講演会など多くの行事の開催に当たっては、自粛による一部行事の中止や入場定員の半減などの措置がとられることとなり、多くの市民の方々にご迷惑をおかけする事態となっております。

この状況は3年度の今日に至るまで継続しており、また、今年に入ってからのおミクロン株コロナウイルスの著しい感染により、博物館の運営に関しても極めて困難な状況が続いております。

こういった状況の中ですが、後ほど報告させていただきます企画展や「やち博講座」、学校への出前授業などを、安全性に配慮し実施しているところです。

本日は、昨年度に本協議会を開催できなかったことから、報告事項として2年度の事業報告、3年度の間報告、そして4年度の事業計画を、また、審議事項として、今日の厳しい状況にあって、博物館の果たすべき役割をどのように遂行すべきなのか、委員の皆様のお立場からの、忌憚のないご意見をいただく機会を設けさせていただきました。

委員の皆様には、重ねて本日の活発なご審議をお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

○清藤館長 それでは、この間職員の異動もありましたので、紹介をさせていただきますが、事前にお送りいたしました名簿と、本日席上配付させていただきました席次表に替えさせていただきます。

続いて、ご出席の各委員から一言ご挨拶をいただきたいと思います。名簿順に自己紹介、よろしくお願いたします。

○出席委員 3名 自己紹介

2 委員長・副委員長選任

○清藤館長 引き続き、委員長・副委員長の選出を行わせていただきます。

八千代市立郷土博物館協議会運営規則第2条に、「博物館協議会に委員長及び副委員長を置き、それぞれ委員の互選によってこれを定める。」とあります。

各委員の皆様からの自薦、ご推薦がありましたら、ご発言ください。

○鈴木委員 事務局の方で何か案はありますか。

○清藤館長 ただ今、「事務局案はあるか」とのご発言をいただきました。

僭越ですが、事務局としては、「委員長に博物館に関するご経験・知識が豊富な久留島委員、副委員長に社会教育・子ども教育の立場からのご知見をいただける横地委員」を提案させていただきます。委員の皆様、いかがでしょうか？

「異議なし」の発言

○清藤館長 皆様の「異議なし」とのご発言をいただきましたので、委員長に久留島委員、副委員長に横地委員が選出されました。久留島委員は委員長席へご移動ください。

それでは、八千代市立郷土博物館協議会運営規則第3条に、「博物館協議会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、会議の議長となる。」となっております。新委員長・新副委員長にご挨拶をいただき、後は委員長に議長をお願いしたいと思います。

3 報告事項

(1) 令和2年度八千代市立郷土博物館事業報告

(2) 令和3年度八千代市立郷土博物館事業報告（中間）

○久留島委員長 それでは、令和3年度八千代市立郷土博物館協議会を開催いたします。

本日はオミクロン株の影響もあること、本日の審議事項等に関する資料も事前に送られご覧になっていることから、簡潔に会議を進めさせていただきます。

はじめに報告事項(1)として、「令和2年度事業報告」が提出されております。報告事項(2)「令和3年度事業報告（中間報告）」も関連・類似しておりますので、事務局から(1)、(2)の報告を続けてお願いたします。

○清藤館長 報告事項(1)・(2)を、資料1・2に基づき、まとめて報告させていただきます。

本日の協議会では、簡潔にということもあり、事業個々の説明というより、それらを行っている根拠についてを中心に報告させていただきます。

資料1の館報の裏表紙の最下部に、「八千代市立郷土博物館基本的運営方針」として、五つの項目が記載されております。これらは、博物館法第8条（設置及び運営上望ましい基準）の『文部大臣は、教育委員会に「設置及び運営上望ましい基準」を提示し、一般公衆に示す』とあり、時とともに変化する博物館の役割について、「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が定められ、その第3条に、

「博物館は設置目的を踏まえ様々な活動に関する「基本的運営方針」を策定し、公表する。」とされています。

このことから、当館では、博物館法第3条に定められた様々な事業、そして、現在の博物館をとりまく、「人生100年時代」、「外国籍市民の増加」、「地域の活性化の要求」などの状況から、八千代市立郷土博物館としての使命を定め、これを基に毎年度の事業を策定しております。

この「基本的運営方針」に基づき実施されているのが、資料1の館報や資料2の事業中間報告に分類され記載されている、毎年実施される様々な事業となります。

「基本的運営方針」に対応して館報の事業をご報告すれば、1については、館報目次の項目では、「資料の収集・保存等」とこれを基にした「調査・研究」、2・3はこれらを活用した様々な事業である「展示」や「市民学習の支援」、4は「学校連携」、5は「地域協働」に相当いたします。

博物館事業の分類は、様々な視点や社会状況により異なると思いますが、現在の当館では、博物館事業をこのように分類し、博物館としての役割を効率的に達成するよう考えています。

これから個々の事業に関して、報告させていただきますが、事前に資料を送付させていただいていることから、簡潔に述べさせていただきます。

まず資料1の館報、1ページの上段「沿革」の最下部近くに書かれていますが、令和2年2月29日から年度を超えて5月31日まで、新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨時休館とさせていただきます。

また、同じページの下段に組織が記載されておりますが、郷土博物館の正規職員、再任用職員は、令和2年度から文化伝承館との兼務発令を受けております。

資料関係の事業ですが、資料1（館報3ページ）に記載しているとおりですが、収蔵資料は46,381点で、資料2の今年度12月末日現在では46,780点で、約400点増加しています。また、資料貸与は、令和2年度は館報の4から6ページの表のとおり、36件215点行いました。

また虫害などで毀損した古文書などを修復する修補ですが、2年度は13点の古文書について行っています。

今後も、地域の自然・歴史・文化に関する資料を将来に継承するための収集・保存に向けた事業を行って参ります。

調査研究は当館の最も弱い点ですが、新型コロナの関係その他のことから、市内の民俗行事の記録保存を中心に行っております。

次に展示、まず常設展示の更新ですが、野外展示の石造物の解説板の整備に加え、公益財団法人千葉県教育振興財団が調査し、千葉県教育委員会が所蔵している、国内でも古い段階、古墳時代の製鉄遺跡である沖塚遺跡出土資料を借用し、展示コーナーを新設しました。

企画展示は、2年度は新型コロナの影響により「くらしのうつりかわり展」を含め2回でした。3年度は、公益財団法人千葉県教育振興財団の主催し当館などが共催した巡回展や「くらしのうつりかわり展」を含め4回開催しております。巡回展の「らくがく縄文館」は、本館のみでは行うことができない、県内出土の縄文土器の優品を中心に、約300点展示され、利用者の皆さんの好評を博したところです。

市民の皆さんが地域の姿を理解できる資料を、八千代市所蔵に限らず収集し、常設・企画限らず展示し、紹介していきたいと考えています。

学校連携は、学校とは組織・人事面で極めて密接な関係にある市立博物館として、重要な事業です

が、これについては後ほど、担当の押元が報告いたしますので、「市民学習の支援」について報告させていただきます。

資料1の館報の目次をご覧ください。その5として「市民学習の支援」がありますが、そこには子ども向け、成人向け、そして講演会などや博物館を飛び出した見学会、さらに初級者向けから専門家向けという、各層の市民に対して幅広い種類の行事を行っています。個々の事業の開催期日、参加者数などは資料1、資料2をご覧ください。

現在の新型コロナ拡大の中で、定員の半減など様々な制約がありますが、市民の皆さんに直接関わる事業として、困難な事もありますが、特に古文書講座は初級～中級の各コースとも、受付開始とともに定員に達するなど好評であり、多くの参加者を得ているところです。これらの事業は特に高齢者が多いことから、安全などに留意し行っております。

最後に地域協働に関しては、地域の関係機関などや公民館などとの連携事業が中心ですが、多文化交流事業については、2・3年度とも安全性を考慮し、中止といたしました。

特に、東京成徳大学と長年にわたり共催し行ってきた「伝統装束体験講座」は、今年度は2月6日（日）に開催予定でしたが、オミクロン株の急激な感染拡大により、密着して数人が行う着付けであること、衣装は何度も共有されることなどから、参加者や着付けを行う学生たちの危険性を考慮し、先日中止を決め、申込者宛に連絡したところです。

以上で、私からの報告を終わり、押元から学校連携に関する報告をさせていただきます。

○押元主査補 私から学校連携について説明させていただきます。

昨年度・本年度の2年間についての話となります。

令和2年度につきましては、77件・6386人の利用がありました。詳細は館報の20・21ページに記載されています。

令和3年度につきましては、中間報告の2ページになりますが50件・3738人の利用がありました。予約状況から3月末までに82件・6450人の利用が見込まれます。

この2年間は、それ以前と比べて、取り巻く環境の大きな変化が3点ございました。それは、「八千代市少年自然の家の閉鎖」「学習指導要領の改訂」「新型コロナウイルスの感染拡大」です。

1点目の「八千代市少年自然の家の閉鎖」に伴う変化です。

自然の家を利用する小学校が、その際に当館のプログラムである「火起こし体験」や「勾玉づくり」「紙飛行機づくり」などを依頼してくださっていました。この中の「火起こし体験」と「勾玉づくり」は、依頼の多いプログラム5本柱のうちの2本でしたので、自然の家の閉鎖によって依頼が減ることとなりました。

2点目の「学習指導要領の改訂」に伴う変化です。

学習指導要領改訂で、学習内容の変更や学年間での移動がありましたので、私達もそれに合わせて内容の修正をしました。特に大きな点は、3年生の「市の移り変わり」の単元や4年生の「防災」の単元で新たにプログラムを準備したことです。その他にも、プログラム名は変わらないものの、内容の修正を加えたものが多くあります。

その際は、私達が調査しただけではなく、秀明大学、市の防災に関わる部署、市民の協力を得るな

ど、市内の組織・人々と連携しながら取り組みました。学校でクラスを持つ担任の先生方では、時間的にも厳しいところがあるかと思えます。こういったところにこそ、博物館の専門性や博物館が持つ「つながり」が生かされたものと考えます。

3点目の「新型コロナウイルスの感染拡大」に伴う変化です。

「新型コロナウイルス感染拡大」によって、学校では「学校に外部の人を入れない」「学校の外に出ない」という基本方針が採られるようになり、私達にとって大きな逆風となりました。しかし、だからこそ新しいことにチャレンジできる機会でもあります。学校の先生方の困っていることに寄り添い、要望が実現できるように取り組みました。

そういった中で、八千代市教育情報ネットワークのウェブ会議システムを活用した「リモート・ミュージアム」をちょうど1年前に立ち上げました。昨年度は実質1ヶ月間で16件・1,140人と、多くの依頼を頂くことができました。また、「すくもで焼き芋づくり」「石臼で粉ひき」「ワラヘビづくり」などは、新学習指導要領でうたうクロス・カリキュラムに適う内容で、来年度以降の継続・他校への波及が想定されるものとなりました。

校外学習ができなくなった学校現場の要望から、3・4年生のプログラムでは各学区に合わせた内容を作成しました。それにより、子ども達に身近できめ細かなプログラムになるよう改善できました。

活動形態も、これまでは学年すべての児童を集めて一度に活動をしていましたが、コロナによって1クラスずつの活動となったことで、特に体験活動や質疑応答など双方向型のやりとりについては一人一人の活動の充実度も上がりました。

ただ、課題もあります。新しいことにチャレンジすると、改善すべき点も見つかります。先生方へのアンケートに書かれた意見を参考にしながら、その都度ブラッシュアップしていくようにしました。「リモート・ミュージアム」も9月の一人一台端末導入以来、回線がパンクしてしまい、依頼を断っている状態です。1クラスずつの活動になったことで、同じ1件の依頼でも複数回授業をすることになり、私達職員の物理的負担は増えています。

様々な課題はありますが、一つ一つ改善できるよう取り組んできました。結果として、この2年間（本年度は3月までの予約状況を含みます）は、それ以前と比べておよそ3分の2の利用実績となっています。

学校現場が私達に求めていることは、大きく3点あるといえます。「博物館が持つ専門性」、「地域の素材・教材の提供」、「具体的・体験的な活動の提供」です。今後も、先生方と連携を密にしながら、学校連携に取り組んで参ります。

以上です。

○久留島委員長 ただいま、事務局から報告のありました件に関しまして、何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

では、少し私から。このコロナ禍の中で、たいへんよく活動されているな、と改めて感心しました。学校への対応などいろいろとむずかしい中で、「リモートミュージアム」をやっておられる。私の所も

そうですし、リモートの活用などは、学校現場ともうまくかみあいつつあるのかな、と思います。今後とも是非学校からの要望とか、その他を含めて改善していただければと思います。

それから特別展ですが、私は展示を見に来れなかったのですが、「らくがく縄文館」というのは、このパンフレットを見せていただいて、非常によくできています。これは、こちらの博物館だけではなくて、県内の博物館を巡回するという展示で、非常に重要なことですし、なかなか予算がない中で県が持っている資料を共有するというのはいいことで、これからも是非こういったことも一緒にやっていただければと思います。

資料についても、調査がなかなかできなかったのではないかな、と思われるのですが、その中で収集・蓄積されているな、と思いました。

コロナ禍の中で博物館活動として十分にされているなと感じました。

○鈴木委員 学校連携ということで、本校にも来ていただいて、体験的なもの、またリモートでもやっていただいて、子ども達にとって、実物が見られるとか触れるとか、自分で体験できるというのは、とても驚きと新鮮な気持ちをもってやっていますので、是非、今後ともよろしく願いいたします。

○横地委員 コロナで中止されているのがありますが、外でなら何とかできるのではないかと思うので、なるべく中止にしないように、おとなの知恵で頑張ってください。

(3) 令和4年度八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子)

○久留島委員長 次に、報告内容(3)の令和4年度事業計画について、事務局お願いします。

○小林副主幹 私、小林が令和4年度事業計画(案)について報告させていただきます。未だ不明確な事項が多いことから、骨子だけの報告となります。

資料3をご覧ください。

2の資料についてですが、当館には約35,000点の古文書資料、その他約10,000点の資料が収蔵されています。そちらの資料収集・保管・管理、古文書の修補、それと調査・研究と併行しながら、令和4年度も展示を考えていきます。

4の展示、まず常設展示ですが、可能な範囲での改善を、館職員が話し合いながら考えていきます。

企画展示の方ですが、年2回予定しています。第1回企画展は4月23日からで、担当の川名が富士山信仰関係資料について準備、調査・研究をしているところです。

第2回以降は未定となっております。今年度とは日程が若干変わっております。

2ページをご覧ください。

同好会連携展示としましては、当館には竹細工同好会、篆刻同好会がありまして、3月に作品展を予定しております。

5の学校連携ですが、コロナ禍の中でできることを考えながら、学校側と相談しながら、出前授業、体験講座等に取り組んで参ります。

その他、職員が担当する、「古文書講座」「やち博講座」「観察会」、3ページに行きまして、「体験講座」等も企画して行きます。

子ども講座に関しましては、ゴールデンウィーク・夏休み期間に親子で取り組めるようなものを、4年度も開講して行きます。

その他に小中学校だけではなく、公民館・市民団体などから講師依頼がありましたら、要望に合わせて市民にいろいろと提供してまいりたいと思っています。

以上が、令和4年度の事業計画骨子となります。

○久留島委員長 ただいま、事務局から報告のありました件に関しまして、何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

○横地委員 ホームページのことなんですけども、今、郷土博物館のホームページを見ると、過去のことは日を追って出てるんですが、今後何をやるのかなって見ると、八千代市のホームページに飛んでください、と。八千代市のホームページに飛びます。そうすると、いつやるのかこちらが知りたいのに、広報が発行された日、1日・15日が出ていて、そこを見るとやっと出てくる。画面には出ていない。こちらが求めているのは、いつどういう事業があるのか、を見たいわけで。今、館の窓口に行事カレンダーがあったんですが、こういうものが郷土博物館のホームページで見られたら、今度こういう行事があるのかわかります。なぜ、今後のことは、八千代市のホームページに一旦飛ばなければならないのか、よくわからなくて。郷土博物館のホームページの中でなぜ見られないのか、使う方、見る方として疑問なんですけど。できれば、郷土博物館のホームページの中でやる日にちがわかるようになればいいと思います。

○久留島委員長 私もその通りだなあ、と思いましたが、いかがですか。今のご意見につきまして何か考えておられることはありますか。

○小林副主幹 ホームページについて、委員のご指摘にあった通り、いろいろな情報を送れるように、広報広聴課と広報活動の中身について分け合っていますが、市民の皆様に必要な情報をどのようにしたら届けられるのか、関係諸機関と相談して対応して行きたいと思えます。ありがとうございます。

○久留島委員長 来るときに少し時間があつたので見て、そのときに、たとえば「やち博ライブラリー」とか、工夫されて、確かにかつてのことについては考えられているなあ、と思ったんですが。

たとえば授業でリモートをされたもの、流せるかどうかは別としてですよ。私の所でも番組を作って流すということを少し考え始めていて、そういう形でやると、来館しなくてすむとかですね。

そういうものも含めて、少しホームページを強化したりすることは必要じゃないかなと改めて思います。八千代市全体で考えなきゃいけないことかもしれませんが、郷土博物館としては刷新してもいいのではないのかな。特に新しい行事は、横地さんがおっしゃったように、これを見たらすぐ行ってみようかなという気になることは、すごく重要なことだと思いますので。しかも、中止のときもこれを見ていただければ、結構PRにも役立つわけですし。私の所でも感染が増えているときには予約制で、そのときにはこれを使っていたわけです。

そういうことも含めてホームページ、それからネットを使った宣伝を考えていただいた方が今後のためにはいいのかな、と改めて思いました。スタッフのご無理のない範囲で。しかし、八千代市に新しく来られた市民は使いこなせる方がほとんどと思われるので、若い人をターゲットにするんだったら絶対必要だなと改めて思いました。

○清藤館長 企画展や常設展のアンケートを見ますと、横地委員からのご指摘のとおり、何をやっているのかわからない、ここへ来て初めてわかったというような、いろいろなご意見があります。今、委員長のお話にもあつたとおり、ホームページでできることはいろいろありますが、はっきりわかっていることは、なるべく早く周知するようにしたいと思います。年間のスケジュールについても発信

の方法を工夫しながら考えて参りたいと思います。

審議事項

(1) 新型コロナウイルス感染症の拡大等異常時における博物館事業について

○久留島委員長 続いて、審議事項の「新型コロナウイルス感染症の拡大における博物館事業について」に移ります。

はじめに事務局からの問題提起をお願いします。

○清藤館長 それでは「新型コロナウイルス感染症の拡大等異常時における博物館事業について」の提案趣旨について説明させていただきます。

資料4-1に記載したように、わが国における新型コロナウイルス感染症の拡大は、今日に至るまで第6波を数え、わが国における経済・社会等の活動全般にわたり大きな支障を来しています。

博物館事業の実施に当たっても多くの制限が設けられ、博物館が果たすべき役割のうち、特に市民の様々な学習活動等社会や市民の活性化に向けた多くの事業、資料1の館報の目次5「市民学習の支援」などに、定員の減少や開催できない事業のあることは、資料1・2や先に報告したとおりです。

様々な行動、映画・演劇鑑賞、旅行、レジャーなどが軒並み制限され、精神文化を十分に享受できない状況は人間の生活にとって重要な問題です。であるからこそ、市民の日常生活における文化的活動を支援し、充実した生活実現に資する事業を提供することは、社会教育施設の一翼を担う博物館の使命と思われまます。

先ほどから説明してきた博物館事業の縮小、これらを「萎縮」と呼びましたが、危険が予想されるから中止・制限するのではなく、安全性が担保される実施方法・内容を工夫することが必要と思われまます。

大野委員からご意見をいただきましたが、その中にある「萎縮」しているのはだれかについて誤解されているようですが、ご本人が出席されていないことから、弁解・反論は控えさせていただきます。

現在のような状況の中でも、生き生きとした暮らしを取り戻す博物館事業を実施するために、各委員の周辺で行われている現状や問題点、そして博物館に対する期待、博物館ができること等について、率直なご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○久留島委員長 これについてのご意見はいかがでしょう。

たたき台として、ご欠席の大野さんから出されたご意見の下の方に書いてあることは傾聴すべきと思ひます。出前展示というのは魅力的だと思ひます。なかなかむずかしいのかもしれませんが、それぞれの学校の教員が使えるような指導案は、本当は先生と一緒に作ると思ひます。作ったものを持って行くというよりは、一緒に作りながらそれを学校に持って行くのがいいのかなと思ひます。出前展示は魅力的な方法だと思ひます。

学校の余裕教室は、八千代ほどのくらいですかね。人口が増えているから、少ないかもしれませんが、そういう部屋を使って、かつては学校博物館だったり、そういうものを使うのも一つの方法かもしれません。

もう一つは出前展示とまではいなくても、きょうの特別展示などを見てますと、写真で八千代のうつりかわりを並べて見せることによって、子ども達に伝えることができそうですので、今回の展示は外に持って行ける展示だと、小林さんの説明を伺って思ひました。くらしのうつりかわりと学校についての展示はいいのではないかなと思ひました。

それから、ケーブルテレビを使うことができるのであれば、これも一つではないかなと思いました。ただ、やり出すと結構たいへんかもしれませんが。

インターネットでの配信、これもどうやってデータとして紹介する工夫ができるのかな、ということですね。

市役所や支所でミニ展示をするというのも、出前展示の一つではあると思います。博物館が閉じているときに、市役所がどんな形で使えるのかわかりませんが、それも一つかな、と。

特に八千代市のうつりかわりというのは、私は千葉市に住んでいるものですから、八千代がこんなに大きくなっているとは、実はびっくりするんですけども。これだけ新しい住民が入ってきて、そして八千代で暮らして、しかもそこで何十年、少なくとも子どもさんを育てるまでにはいられる方が多いんじゃないか。そうすると、やっぱり自分が今住んでいる、あるいは、自分が通った学区のそういう地域の歴史を、写真を通じて知るといのは非常に重要だなと感じると思います。そういうことも含めてやっていただければと思いました。

全体として、「萎縮」というのは確かにおっしゃったように問題だと思います。世界的なコロナ禍の中で社会経済活動が停滞したことが問題になってますが、どうも聞いてると、人間が文化活動を制約されたことに対するストレスがものすごく大きいわけで、博物館というのは文化活動の核だと思うんですね、だからできることを発信して行くことが必要だと改めて思います。私も自分が展示できなくなったときに、はたしてそれでいいのか、こういうときこそ、こちらから発信していかなければだめだなと思いました。八千代市立郷土博物館は、これまでも外に向かって実際に出て行ったりして、活動が充実しているわけですから、それをできるだけ絶やさないように、事業を考えていただければいろいろなことができるなど、大野さんの刺激を受けて思いました。

○鈴木委員 先程も申しましたけども、確かに写真とか、八千代市のうつりかわりについて、3年生・4年生の授業でやっていますので、これからも、そういったところで是非活用できたらなあ、と思います。

私、以前睦小学校にいたんですけども、睦小の歴史というもの、地域の歴史について、ここに伺ったときに説明を受けまして、子ども達もうんうんとうなずいている場面が多く見られましたので、そういった面でさらに充実していったらいいな、と思っています。よろしく願いいたします。

○横地委員 今、子ども、小学生でもユーチューブを普通に発信しているので、たとえば「きょうの館長」という番組を、2分か3分でいいので、何か館長のお好きな部屋で、毎日、毎日ではなくても発信していただけると、私必ずフォロワーになりますので、どうかな、と。

○久留島委員長 清藤館長いかがですか。「きょうの館長」(笑い) 私が実はできなくて、そういうことと言われるとちょっとドキッとして。でも、何かそういう工夫をして行くってのは、どうでしょうか。

たとえば、「くらしの植物園」で、きょう咲いている一番いい花を出したり、そういうちょっとした工夫ですね。少し一歩踏み出して、配信をするってことですね。

○横地委員 ツイッターはゴチャゴチャしちゃって、どれがどれだかわからなくなるので、できればユーチューブの方が、フォローしたときに、すぐサクッと出てくるので。長い番組でなくていいので。

○久留島委員長 毎日とは言わず、少し考えていただければ。

大野さんもおっしゃっておられますけど、費用をかけないでやるのがむしろ逆に、実はコロナ禍の中で生まれているのかもしれない。研究会とかシンポジウムなどをやると、それだけで本当にすご

いお金がかかります、会議もそう。それがいらなくなってしまうので、そういうこともできるということ。お金をかけないでやる工夫っていうのも必要じゃないか。それは萎縮ではなくて、おそらく、むしろ展開してるんじゃないかと思います。是非よろしくお願いします。

○久留島委員長 本日の第1回協議会に提出された報告事項、審議事項につきましては、予定どおり終了しました。委員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。

では、第1回協議会を閉会といたします。

視察

(1) 令和3年度特別展「くらしのうつりかわり展～学びを支えたもの～」

○小林副主幹 私が、展示室にご案内し、説明いたしますので、お時間に余裕のある委員はご参加ください。

○清藤館長 本日はご多忙の中、第1回協議会にご参加いただきありがとうございます。

視察にご参加の委員は、学習室入り口に小林が待機しておりますので、ご案内に従ってお進みください。

本日はありがとうございました。